

区長の  
本気



台東 服部征夫

美術館を大切に守り、後世にしっかりと継承していきたいと思っている。

平成28年7月、台東区上野にある国立西洋美術館が世界文化遺産に登録された。東京都では初めての世界文化遺産となる。国立西洋美術館は、

20世紀を代表する建築家、ル・コルビュジエが設計した日本で唯一の建物。私は、美術館建設のきっかけとなった「松方コレクション」、松方幸次郎氏の功績とともに、人類共通の宝となった国立西洋

服部征夫 (はっとり ゆくお) 昭和18年生まれ。日大法学部卒。5期にわたって台東区議。区議会議長などを歴任後、都議に当選。在任中には、警察・消防委員会委員長、都議会予算特別委員会委員長などを務める。平成27年3月から台東区長。

上野、そして台東区には、ますます来街者が増加することが見込まれる。「世界遺産のあるまち」台東区として魅力を国内外に強く発信し、多くのお客さまをおもてなしの心でお迎えしたいと思っています。

29、30日には、上野公園で世界遺産登録記念イベントを開催する。区ではまちを花で飾り、おもてなしの心、慈しみの心を育むことをめざし、本年4月「花の心 たいとう宣言」を行い、「花の心プロジェクト」をスタートさせた。

宣言文の起草にあたり、国際オリンピック委員会名誉委員の岡野俊一郎氏をはじめ起草委員会の方々にご尽力いただいた。花は、人の心を豊かにし、安らぎとゆとり、希望と勇気をもたらす。私は、都議会議員時代に、国連NNGOのOISCA(オイスカ)に参加し、インドネシアやモンゴル、マレーシアなどで子供たちとふれあいながら、植林活動を行ってきた。

10年ほど前、ベトナムを訪

# 「花の心」でおもてなし

れた際には、ベトナム戦争の影響で壊滅の危機にあったマングローブ林を復活させようと、オイスカメンバーとともに、約2千本のマングローブを植えた。その時に、枯れ葉剤の影響で荒廃した大地に一輪の花がけなげに咲いている姿を目にした。花の力強さ、たくましさ心に打たれ、「花は、我々に生命の大切さや慈しみの心を教えてくれる。我々は、花から学び、得るものがある」と強く感じたものだ。

現在実施している「花の心プロジェクト」では、区内の道路や公園、施設等の花壇を充実させるとともに、小学校では、知育・体育・徳育に加えて、「花育」という教育活動を行っている。「花育」は、理科や生物の学習としてだけではなく、子供たちが花を大切に育てながら、命の大切さや力強さ、たくましさといった花の素晴らしさを受け止め、花の心を育むことにつながるもの。

2020年五輪・パラリンピック競技大会が開催される7月は、台東区の花「あさがお」が季節の花として親しまれている。私は、さまざまなかで咲くあさがおの中でも特に、白いあさがおが好きだ。その花言葉は「固い絆」。家

庭や地域の絆を大切にしながら、心豊かでうるおいのあるまちづくりを進め、台東区を訪れる各国の方々を、あさがおをはじめ色とりどりの花でおもてなしをしたいと考えている。

五輪・パラリンピック競技大会は、スポーツはもとより、文化の祭典でもある。台東区が誇る芸術文化を国内外に発信していくことも重要となる。

区内にある東京藝術大学では、「Summer Arts Japan 2016」が今夏開催され、スポーツと芸術と科学を融合させる新たな総合芸術への取り組みが行われ、大いに盛り上がった。同大と連携して、障害者をはじめ誰もが芸術文化に一層参加できるよう、先進的な取り組みも進めていくつもりだ。

また、7月の「産業フェア」では、ASEAN各国の大使館関係者をお招きし、区のものづくりの技術を披露し、称賛の声をいただいた。

今後も、地域産業の更なる発展に向け、「台東区ブランド」が「日本のショーウィンドー」としての役割を果たしていきたいと考える。今まさに、多彩な魅力を持つ台東区は、世界に向けて躍進のときを迎えている。